

## 別添資料-2 「駄賃付馬子唄と解説」

# 「 駄 賃 付 馬 子 唄 」

当時の荷馬車<sup>ひ</sup>鞍<sup>あ</sup>きの風情を物語る「駄賃付馬子唄」という詩があるので紹介します。

1. 万世大路<sup>ばんせいたいろ</sup> 石たたみ  
馬よ気をつけよ、足ともに  
※石たたみとは、旧スズラン通りに内務省で施工した特殊な  
コンクリート舗装（表面が石を磨いたように見える）のことと  
思われる。昭和6年、当時の国道5号、4号分岐点。
2. 手綱<sup>たづな</sup>両手に すげ笠かぶり  
手っこきやはんに、わらじ履き  
※すげ笠…菅(スゲ)の茎や葉で編んだ円錐形の笠  
※手っこきやはん…手<sup>てっこう</sup>甲<sup>まへ</sup>と脚絆<sup>きまはん</sup>
3. 成出<sup>なりいで</sup>越えれば登り坂  
急げや急げ、日が暮れる  
※成出…現在の北沢又を過ぎ、笹谷地区入口あたりの地名
4. 日もし堰場<sup>せきば</sup>で、鞭<sup>むち</sup>うちかけりや  
馬もいなく、車もきしむ  
※堰場…福島からの万世大路と飯坂からの旧中野街道の中野  
合流地点付近（現在の国道13号は往時の合流点は通ら  
ない）
5. 暗いトンネル<sup>たいまつ</sup> 松明たより  
山神橋<sup>さんじんばし</sup>のあのたもと  
※暗いトンネル…旧高平隧道と思われる  
※山神橋…杉の平の終点(大滝側)に在る旧橋（昔は木造の土橋）
6. つむぎキセルで一息<sup>つむぎ</sup>つけば  
月もほほ笑み 流れも踊る  
※つむぎキセル…きざみタバコを<sup>つむぎ</sup>紡ぎ、<sup>きせる</sup>煙管に詰めて吸う様
7. 長い出来沼<sup>できぬま</sup>、大桁<sup>おおげた</sup>がんげ  
でこぼこ道の登り坂  
※出来沼…現在の中野第1,2トンネルの背後にあたる旧万世大路  
の地名  
ここに沼が在った記憶はないが、山神橋を過ぎ、大桁・出来沼  
から中野銅山(現中野第2トンネル大滝側出口川向付近)入口  
迄は急峻な長い上り坂の悪路だった。  
※大桁…明治の頃は<sup>大桁</sup>洞門(29m程)が有り、その後切通しとな  
った。  
※がんげ…崖(がけ)の大滝弁…この辺りは断崖絶壁でいつも落石して  
いた。

8. 万太郎<sup>まんたろ</sup>越えれば、福寿草山<sup>ふくじゅそやま</sup>の  
ひとり湧く水、手酌で飲ませ

※万太郎<sup>まんたろ</sup>…現在の中野第二トンネル大滝側出口から数百 m 位先右側に  
佐藤万太郎家が一軒だけポツンと在り往来の目印になって  
いた。

注 [『万世大路事業誌』(明治 14 年福島県土木課編)の「雑記之部」  
の中に、万太郎沢というものが、当該万太郎箇所付近と思われる  
順序で他の沢と共に列記されている。  
このことから万太郎というのは、人名の佐藤万太郎氏を指すと  
いうよりも元々の地名である可能性もある。]

※福寿草山<sup>ふくじゅそやま</sup>…現在の国道 13 号から大滝に下りる右手の山  
(山に自生していた福寿草は国道 13 号の工事で消滅)

●万太郎や福寿草山のルビは大滝では単語の末尾の「う」や「わ」を  
発音しない言葉の習慣が有り、あえてルビもそのように表記した。  
(「手っこ」や「まんじゅ屋」も末尾省略形、その他 いら沢<sup>いらざ</sup>、西川<sup>にしが</sup>、  
菱川<sup>ひしが</sup>、小川滝<sup>おがたき</sup>、烏川<sup>からすが</sup>、霞沢<sup>よしざ</sup>…等々)

※ひとり湧く水…旧万世大路を大滝に入るとすぐ右側に  
福寿草山の山肌から岩清水が湧き出していた。

9. 馬のたてがみ、撫でながら  
曲がり曲がれば、まんじゅ屋見える

※まんじゅ屋…旧吉田富三郎氏宅  
(明治末から大正時代まで、吉田家では饅頭を作り川向いの  
大滝銅山の労働者相手に売っていたので、廃村まで通称  
まんじゅ屋さんとおっていた。)

10. 葭沢橋<sup>よしざわばし</sup>をば、馬方節で  
曲がり角から、大滝見える

11. 「ちゃん今かい」  
これがわが家だ大滝だ

※ちゃん…お父さん(父ちゃん<sup>とうちゃん</sup>の省略語)

12. 明日は栗子の大平<sup>おおだいら</sup>  
慈悲<sup>めくみ</sup>の恵をいただいて  
三代続いた馬方節よ。

(荷馬車輓き三代続いた大滝・蒲倉<sup>かぼくら</sup>家のご出身  
奥野ミサオさんによる。『わが大滝の記録』誌 5 頁より)

(注) ・上記の※印注釈は大滝会ホームページ管理人(紺野文英氏)による(一部鹿摩)。  
・馬子唄は旧万世大路を福島から大滝に向かう道順で詠まれている。  
・当該資料は当日見学者へ配付したものである。

—— [別添資料-3 へ](#) ——

—— [別添資料-1 へ戻る](#) ——

—— [本文へ戻る](#) ——